

科目名	基礎看護技術Ⅰ (看護の共通基本技術) Fundamental Nursing SkillsⅠ			担当教員 (研究室番号)	鈴木 聡美 (306) 川島 珠実 (202) 多久和有加 (208) 米川さや香 (208)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次前期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学			選択区分	必修	単位数 (時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
												オープンクラス	否
科目目的	看護実践の基本となる看護援助について、安全・安楽に実施する技術を、主体的な学習により修得する。												
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)											
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)											
到達目標	1. 看護技術の特徴について、自分の言葉で説明できる。 2. 対象者と看護者にとって、看護援助が安全・安楽、効率的であるために基本的な知識および技術を習得できる。 3. 根拠に基づいて看護を実践することの必要性を説明できる。 4. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。												
成績評価方法(基準)		筆記試験(40点)、課題レポート(40点)、技術確認(20点)による総合評価を行う。なお、筆記試験・技術確認はそれぞれ60%以上の評価、かつ総合点60点以上であることを単位認定の条件とする。											
再試験の有無と基準等		筆記試験で不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。											
教科書		看護学テキストNICE 基礎看護技術, 改訂第3版, 南江堂											
参考書等		ガーゼニア・ハンダーソン著, 湯植ますほか訳: 看護の基本となるもの(再新装版), 日本看護協会出版会, 2019. フロイス・ナディング著, 小玉香津子・尾田葉子訳: 看護覚え書(新装版), 日本看護協会出版会, 2019. その他、授業の中で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		基礎看護技術の科目では、看護技術の根拠を考えながら、対象者を尊重しその人に合わせた方法で援助を行うにはどうすればよいか、追求してもらいたいと考えています。そのため、事前学習が必須であり、講義・演習ではグループで検討することを重視します。また演習では、学生間で患者役・看護者役を交代しながら学習しますので、それぞれの役割で感じたことや考えたことを言語化して共有しましょう。 共通基本技術は、授業(講義・演習)を受けるだけでは習得することはできません。授業では、「あとは自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己練習のポイントをつかむようにしましょう。また、自分のスケジュールを調整して、予習・復習及び技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度を高めるよう取り組んでください。											
備考		・授業の一週間前までにWebClassに授業概要や事前課題(レポート・映像教材視聴含む)や 演習用紙(演習ノート)等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後の片付けがあるため、自己の役割を理解して主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで提示する)。											
回	学習項目					学習内容					主担当教員	授業方法	
1回	オリエンテーション					看護技術の考え方・学習の仕方・実習室の使い方を学ぶ。					鈴木、他	講義演習	
2回	安全確保・感染防止の技術①					対象者と看護者の安全を守るために、感染防止・事故防止の観点から安全の意義、安全を脅かす要因および排除する方法を学ぶ。					米川	講義	
3回	安全確保・感染防止の技術②					スタンダードプリコーション(手指衛生、エプロン・マスク・手袋の着脱)の実際を学ぶ。					米川、他	演習	
4回	活動・休息援助技術①					活動の意義、活動に影響を与える要因・アセスメントの視点、およびボディメカニクスの基本原理を学ぶ。					多久和	講義	
5回	活動・休息援助技術②					援助過程における効果的な身体への使い方(ボディメカニクスの活用)および臥床状態の対象者を安楽な体位にする技術を学ぶ。					多久和、他	演習	
6回	環境調整技術①					人間にとっての環境の意味、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を学ぶ。					鈴木	講義	
7回	環境調整技術②					基本的なベッドメイキングの技術を学ぶ。					鈴木、他	演習	
8回	コミュニケーション					看護場面におけるコミュニケーションに必要な態度や能力について理解する。					川島、他	講義演習	
9回	活動・休息援助技術③					活動を支援する必要性、および臥床状態の対象者の体位変換(ベッド上の水平移動、仰臥位から側臥位)の技術を学ぶ。					多久和、他	演習	

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
10回	活動・休息援助技術④	生活における休息・睡眠の意義、休息・睡眠に影響を与える要因・アセスメントの視点、および援助方法を学ぶ。	鈴木	講義
11回	環境調整技術③	臥床状態の対象者のシーツ交換の援助を学ぶ。	米川、他	演習
12回	安楽援助技術①	人間にとっての安楽の意味、対象者の苦痛の緩和や安楽につながる援助方法を学ぶ。	鈴木	講義
13回	安楽援助技術②	対象者に安楽をもたらす援助の実際を学ぶ。	鈴木、他	演習
14回	技術確認	学習した技術における自己の課題に取り組んだ成果を、他者評価・自己評価によって明らかにする。	米川、他	演習
15回	活動・休息援助技術⑤	車いす・ストレッチャーへの移乗および移送の技術を学ぶ。	多久和、他	演習

学 習 課 題
* レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。 1回目課題（事前）：シラバスをよく読み、科目の概要を知る。また、教科書の第Ⅰ章を読み内容を理解する。 1回目課題（事後）：実習室を見学し、物品の場所や使用ルールを理解する。また、電動ベッドを実際に動かして操作方法を理解する。 2・3回目課題（事前）：教科書や資料を基に安全の意義について、自己の考えを整理する。 2・3回目課題（事後）：スタンダードプリコーションのチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。 4・5回目課題（事前）：教科書および資料を基に活動・運動の意義、ボディメカニクスの基本原理を整理する。 4・5回目課題（事後）：安楽な体位および、ボディメカニクスを活用した身体の使い方を復習する。 6回目課題（事前）：教科書および資料を基に人間にとっての環境の意義を整理する。 6回目課題（事後）：「生活環境を整える意味」について、自己の考えをレポートにまとめ、提出する。 7回目課題（事前）：教科書および資料を基にベッドメイキングにおける技術の根拠・留意点を整理する。 7回目課題（事後）：ベッドメイキングの技術のポイントを演習ノートに整理し、技術を習得できるように自己練習に取り組む。 8回目課題（事前）：教科書および資料を基にコミュニケーションの種類、コミュニケーションの技法を整理する。 8回目課題（事後）：コミュニケーションの技法の有用性について、自分の考えをレポートにまとめ、提出する。 9回目課題（事前）：教科書および資料を基に体位変換における技術の根拠・留意点を整理する。 9回目課題（事後）：体位変換のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。 10回目課題（事前）：教科書のp. 329～335を読み内容を理解する。 10回目課題（事後）：休息・睡眠の意義について、自己の考えをレポートにまとめ、提出する。 11回目課題（事前）：教科書および資料を基にシーツ交換における技術の根拠・留意点を整理する。 11回目課題（事後）：看護者1名でシーツ交換を行う方法を考え、技術を習得できるように自己練習に取り組む。 12・13回目課題（事前）：教科書や資料を基に人間にとっての安楽の意味を整理する。 12・13回目課題（事後）：安楽をもたらす援助が対象者に与える影響をレポートにまとめ、提出する。 14回目課題（事前）：基礎看護技術Ⅰで学習した技術における自己の課題に取り組む。 14回目課題（事後）：他者評価を踏まえて、自己の技術を客観的に評価し、自己の課題を明確にする。 15回目課題（事前）：教科書および資料を基に車椅子・ストレッチャーによる移動・移乗の方法と留意点を整理する。 15回目課題（事後）：移乗・移送される体験から気づいたことや学んだことを記述し、提出する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。